

第2次黒部市総合振興計画審議会

第1回第1部会【環境・安全】

議事概要

日時：平成28年11月29日（火）10:00～11:48

場所：黒部市役所202・203会議室

出席者：委員7名（欠席なし）、専門委員1名（欠席1名）

幹事5名（欠席1名）、計画主任8名（欠席2名）、事務局4名

次第

1. 開会
2. 部会長あいさつ
3. 報告事項
 - （1）計画策定に係るこれまでの経過について
 - （2）各委員からの意見・提言について
4. 協議事項
 - （1）第1次総合振興計画の成果について
 - （2）施策の現状・課題及び施策推進の方針等について
 - （3）施策体系（まちづくり方針・施策区分等）について
 - （4）その他
5. 閉会

主な発言（検討）内容

○：委員からの質問・意見、●：事務局の意見・回答

部会長あいさつ

○部会長：部会長として不慣れな点もあるが、円滑な議事進行にご協力いただきたい。本日は環境・安全部会に出席いただき感謝する。第1回審議会では基本構想、基本計画の諮問を受け、スケジュールを確認した。また、将来像については、第1次総合振興計画と同様の「大自然のシンフォニー 文化・交流のまち黒部」基本理念は「市民の参画と協働によるまちづくり」で決定した。本部会では、みなさんの活発な議論により、今後の黒部市におけるまちづくり方針

や具体的な施策について意見をいただきたい。

報告事項

(これまでの経過、各委員からの意見・提言について、事務局より説明)

協議事項

(資料 3-1、3-2：第 1 次総合振興計画の成果について、事務局より説明)

※資料差替：資料 3-1「4-11 ごみの減量化・リサイクルの推進」

- A 委員：資料 3-2 の自然環境保全エコツアー開発推進事業 (N012) は縮小となっており、理由には民間主導への転換について記載されている。対策などは考えているのか。
- 計画主任：行政主導から民間主導に転換していきたい思いから縮小としている。行政は民間活動の支援に注力したいと思っている。
- A 委員：活動への支援をお願いしたい。
- B 委員：黒部の名水 PR に関する事業について、黒部名水会では毎年、名水サミットへ参加して黒部の名水を PR している。黒部の水は全国に誇れる資源であり、資料 3-2 の 4 頁に記載の「水に関するイベントおよび全国 PR の推進」については、継続ではなく拡大してほしい。
- 計画主任：今年は伊勢志摩市で開催された名水サミットへ名水会のメンバーと参加した。来年は愛媛県西予市で開催される予定であるが、再来年の開催地は決定していないため、黒部市となるよう要望をしてきた。今後も継続的に取組を進めていきたい。
- 事務局：資料 3-2 は、第 1 次総合振興計画における事業の成果と第 2 次総合振興計画における対応を記載している。名水サミットの誘致は新規事業に該当するため、新規事業を議論する際に改めてご意見をいただければと思う。
- C 委員：資料 3-1 について、平成 20 年度末と平成 27 年度末において、数値が変わっていない項目が 3 つほど見られるが、その要因がわかれば教えてほしい。
- 計画主任：河川愛護団体については、高橋川などの管理をお願いしているが、登録が進まない状況にある。
- 計画主任：宇奈月温泉の研究開発については、正直なところ取組が進んでいなかった。昨今の全国的な地方創生の流れもあり、調査研究が開始された段階である。来年度あたりから目に見える成果が挙がってくるのではないかと思う。
- 計画主任：消防水利の充足率について、消火栓や貯水槽が設置されていない場所に家屋が立地すると充足されていないこととなり、数値が下がる。このような事例が

要因として考えられる。

- 計画主任：自主防災組織が実施する訓練・研修の参加延べ人数について、組織は設立され、人数は増えているが、活動に転換されていないことが要因として考えられる。出前講座等を行い、訓練の実施につながるようにしていきたい。
- 事務局：資料 3-1 の補足であるが、中間年の数値については、先日の審議会資料の参考資料 1 をご確認くださいと思う。
- 部会長：町内会においても黒部川の管理を行っている状況を踏まえると、3 団体は少なく感じる。今後、目標指標にどのような組織が含まれるか議論が必要かと思う。
- 都市建設部長：組織規模など定義や条件の見直しを含め、検討していきたい。
- C 委員：河川法に基づく河川愛護団体としての指定要件が決まっている。国土交通省としても積極的に認定していきたいと考えており、登録を推進してほしいと思う。余談ではあるが、河川だけでなく海岸や道路においても同様の制度がある。
- D 委員：資料 3-1 自然環境の保全に記載の有害鳥獣被害の軽減について、被害額が急激に減少している。イノシシやサルの個体数等について教えてほしい。
- 計画主任：被害額の大部分はイノシシとサルによるものであり、電気柵が一番の対策である。電気柵の設置状況は、平成 20 年度は 1.8 km だったところ、平成 27 年度は 67km となっている。電気柵を設置した場所は被害が抑制されるが、設置していない場所に被害が集中する状況にある。イノシシについては、平成 27 年度は 60 頭、平成 28 年度は 100 頭の捕獲数があり、数が増えている。サルについては毎年 60 頭ほど駆除をしているが、正確な個体数は把握できない。
- D 委員：地震についてのハザードマップはどのように考えているのか。また、人口当たりの消防職員数を教えてほしい。
- 計画主任：地震については活断層の位置などを示すことは可能であるが、被害想定は難しく、ハザードマップは作れない。地震発生時の対応マニュアルは作成している。
- C 委員：少し補足すると地震については活断層があっても地震規模や被害想定を予測することは非常に難しい。太平洋側のプレート型地震については研究が進みある程度の想定はされているが、県内の活断層についてはそこまでに至っていない。ただ、関連したものとして液状化が発生する場所などを示した揺れやすさマップがあるので、その資料を参考にしてはどうかと思う。
- D 委員：今後の話として、市民に周知することが重要と感じた。
- 計画主任：人口については手元に詳細な資料がないため、はっきりとした数値は答えられないが、統計等を確認し、単純に計算することは可能である。
- D 委員：災害が発生した時に現状の職員数で対応可能なのか考えていく必要があると思う。
- 事務局：黒部消防署は新川地域の消防本部も含まれるため、黒部市だけが対象とな

るわけではない。総合振興計画において消防団や消防水利などについては今後の検討対象として挙げることはできるが、消防本部の人員や装備を充実する旨のことは触れられないことかと思う。ご理解いただきたい。

- D委員：災害の際には地域は関係ないと思う。市民を救助する視点から考えていくことは有益ではないか。
- 計画主任：おっしゃる通りであるが、災害発生時は組織全体として行動するため、黒部市に職員が何人対応するか棲み分けることは難しい。
- 部会長：先ほど、事務局より説明があったが、消防の活動範囲については、黒部市に限らないため、総合振興計画では消防団の範囲で施策を検討していければと思う。

(資料4：施策の現状・課題及び施策推進の方針等について、事務局より説明)

- C委員：河川海岸環境の保全と整備には、ハザードマップの周知について記載があるが、可能であれば避難訓練についての記載もほしい。河川事業の河川想定最大規模洪水の周知に関連して、県の方では、津波想定最大規模の検討を進めているようである。海岸事業においても同様に周知と避難訓練をセットに記載してはどうか。記載場所については、当施策区分もしくは「消防・防災体制の充実」のどちらかに記載してはどうかと思う。国土交通省としても推進したいことであり、全面的にバックアップしていきたい。
- 計画主任：防災については7頁に記載しているので調整したいと思う。訓練については、一例であるが河川災害を想定してボートの組み立て訓練や夜間時の避難訓練を実施してきた。詳細に訓練の内容を記載するなど事務局と調整しながら内容を検討したい。
- A委員：「水を活かしたまちづくり」に“水の保全と利活用に変更”と記載があるが、水の保全には、どこまでの範囲を想定しているのか教えてほしい。
- 計画主任：工場排水や地下水のくみ上げなど、水環境に関連する総合的な内容を想定している。

(資料5：施策体系について、事務局より説明)

- A委員：自然環境の保全との記載があるが、保護という言葉を使っていない意味は、意図的に使い分けは行っているのか。
- 事務局：保全の中に保護も含まれているという意図である。
- E委員：大学や研究所などへの研究支援や研究内容の周知もできればと思った。
- 事務局：水環境保全整備事業の事業メニュー「水環境保全団体などの活動支援」では県内大学と連携した個別事業が盛り込まれており、その部分に該当するかと思う。

- C委員：事務所でダムや河川の管理をしているが、流木に頭を悩ましている。処分するためには費用を要するため、一般の方も含め自由に持っていても良いとしているが、まとまった量を持っていく方は少ない。施策としてエネルギー利用などに活用していただけるとありがたい。
- 計画主任：宇奈月温泉コンソーシアムでは流木の利活用について研究を進め、実証実験を行っている。実用化できるかわからない状況にあるが、廃棄されているものが有効資源として利用できればと思う。
- 部会長：流木を利活用する際に、加工に費用や手間がかかる。現在の処分費用に比べれば低コストになるかと思うので、1 m間隔にカットするだけでも支援してほしいと思う。
- C委員：流木は、薪に利用しづらいとの話も聞いている。その辺も含め、内部で検討していきたい。

閉会

- 事務局：次回の第2回第1部会は、2月1日（水）10:00より行う。

以上